第２学年　社会科学習指導案

授業者　　中　里　　勝　明

１　日　時　平成１６年１０月１４日（木）　５校時

２　学　級　２年Ａ組　男６名 女１４名 計２０名　２年Ａ組教室

３　単元名　第３編　世界から見た日本のすがた　第１章　さまざまな面から見た日本
４　世界と日本の産業・資源　「ミニ・ディベート『開発』か『環境保護』か」

４　単元について

この単元は、「世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。」ことを目標とし、日本の国土の特色を、地域間の比較や関連づけの中から類似性や傾向性に着目して明らかにするとともに、地域的特色を明らかにする調べ方や学び方を身につけることをねらっている。

２年Ａ組の生徒は、ほとんどが学習に集中して取り組み、熱心な学習態度である。生徒会活動や部活動でも具体的な目標を持って積極的に活動している。人間関係においては、保育所から中学校までほぼ同じメンバーと共に生活する中で、友人に対して固定化された見方で接している面が見られる。周りの目を気にしたり、トラブルを処理する能力が低かったりする面が見られる。また、男子が極端に少ないため、ほとんどの活動の中心が発言力の強い女子になってしまう。

そこで、「世界と日本の産業・資源」の学習後に、自分たちで調べ発表し討論し合う場面を設定した。「開発」か「環境保護」というテーマで、さらに学習を深めたいと考えた。討論を展開するために資料を調べたり発表の資料を作成したりする場面ではこれまでの社会科の学習が生かされると考える。また、討論会までの準備の段階で協力し合う中からお互いを認め合う素地が作られるものと考えた。さらに、討論では自分と違う立場の意見を聞いたり反論したりする中から自己と他者の理解が深まるものと考えた。

５　指導計画

（１）　単元の目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 日本の産業・資源について、世界的な視野から見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の地域差を追求する学習に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。

【社会的な思考・判断】
- 日本の農業・林業・水産業や工業の特色と課題について、世界との比較・関連の中で説明することができる。

【資料活用の技能・表現】
- 地図、写真、グラフ等から産業の特色を読み取ったり、調べて明らかになったことを発表資料にまとめることができる。

【社会的事象についての知識・理解】
- 日本は、農業、林業、水産業や工業の盛んな国であるが、そのおおまかな地域特性と現状を理解し、それぞれの産業の課題に気づく。

（２）　指導計画と評価規準（９時間扱い）

	時 間	関心意欲態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
世界の資源と日本				地図や主題図	世界の資源分

	1			から世界の資源の分布を読み取ったり、グラフに表したりすることができる。	布と日本が多くの資源を輸入に頼っていることを知る。
変化する日本の農業	1	日本の農業の高度な土地利用や生産性の高さに関心をもつ。	農産物の自由化にともなう影響について考えることができる。		
世界と日本の林業と漁業	1	資源の減少に伴って「育てる漁業」への転換が図られていることに関心をもつ。			林業と水産業について、日本の現状を理解することができる。
工業立国・日本の特色	1		先進工業国である日本の悩みや課題を考えることができる。		臨海に工業地域が形成されていることを理解することができる。
発展するさまざまな産業	1	日本の諸地域で環境を生かした様々な産業が行われていることに関心を持つ。			
国際化時代の産業と環境	1		大量生産・消費の生活は、廃棄物を増大させ、環境に配慮したものづくりが求められていることを考えることができる。	国際化に伴う出入国の実態を作業を通してつかむことができる。	
ミニディベート「開発」か「環境保護」か	3 本時 3／3	これまでの学習から身近な地域の実態について関心を持つ。 （3／1）	環境を守りながら開発を進めるにはどうしたらよいか考える. （3／3）	適切な資料を探したり作ったりすることができる。 （3／2）	

6　本時の指導

（1）ねらい

・　討論をする中から、環境を守りながら開発を進めるにはどうしたらよいかについて考えることができる。

・　ディベートを通して、協力して活動する中でお互いの考え方を認め合うとともに、お互いのよさに気づくことができる。

（2）指導の構想

これまでの学習をふまえ、場面を身近な「陸前高田市」想定して、開発か保護かのミニディベートを行う。尚、抽選で「司会」「判定」「開発派」「保護派」を振り分け、生徒自信で展開するディベートを目指した。教師は、助言者として参加し、各派に助言を与えたり補足説明を行ったりする。また、判定後はディベート全体の講評を行い、それぞれの活動に対してプラスの評価を与える。

（３）展　開

段階	生徒の学習活動	教師の支援	＊評価等
導入 （６）	１ディベートを行う。 ①立論 ・開発派立論 ・保護派立論	・教師は助言者として参加する。 ・要点を整理する。	＊論旨を明確にして立論できたか。
展開 (29)	②第１回作戦タイム ・反論を考える。 ・別の面から自派の意見を主張する。	・役割を確認し、助言を与える。	＊積極的に話し合いに参加したか。
	③反論 ・それぞれ立論に対する反論をする。	・要点を整理する。	＊的確な反論をすることができたか。
	③第２回作戦タイム どんな面から攻めるか話し合う。		
	④自由討論 自由に挙手しながら意見を述べる 相手の意見に対する不備な点や不明な点を指摘する	・未習な内容は補足説明をする。	＊積極的に討論に参加したか。
	⑤最終弁論 ・最終的な自分たちの意見を発表する。		＊論旨を明確にして最終的な意見を述べることができたか。
	⑥判定 ・どちらが優勢だったか判定する。	・ディベート全体や判定に対する講評を行う。	
終末 (15)	２ディベートを振り返る。 ①ディベートの感想を書く。 ・自己評価を行う。 誰のどの意見がよかったかを書く。	・本時だけではなく、これまでの活動を振り返らせる。	＊自分の討論参加について振り返ることができたか。
	②感想を発表する。 よい意見や影響された意見について認め合う。	・机間巡視で、よさを認めている生徒を認め、発表の準備をさせる。	＊友達のよさを発見することができたか。

（４）評価の観点と指導の手立て

A：十分満足できる	B：概ね満足できる	努力を要する生徒への指導の手立て
・ディベートを通して、望ましい具体的な方策を考えることができる。 ・それぞれの意見や感想から友達のよさについて積極的に認めることができる。	・ディベートを通して、自他の意見から望ましい方向を考えることができる。 ・友達のよさに気付くことができる。	・開発や保護一辺倒の考え方で進むとどのような結果になるか考えさせる。 ・準備の段階から今日までを想起させ、どの場面で誰がどんな活動をしてきたか思い出させる。

ミニディベートを終えて　（「開発」か「保護」か）

２年　　番

１　自分の役割を振替ってみよう。　　A ―― B ―― C ―― D

（　A：よくできた　B：だいたいできた　C：あまりうまくできなかった　D：うまくできなかった　）

２　誰のどの意見がよかったか。

誰の

意見

理由

３　活動全体を通して、よくがんばっていたのは誰ですか。

誰の

活動内容

３　今日のディベートを振返って、今後の陸前高田市の進むべき方向について、自分の考えを書こう。

ディベートとは何か

1　ディベートとは何か　【定義】

①　ディベートとは、ある目的のために一つの論題（テーマ）をめぐって行う討論のことです。
②　そして、相対する二組が自分の意見にかかわりなく肯定と否定とに分かれて行う討論です。
③　一定の時間とルールに従って、その主張の論理性や実証性を競い合うゲーム的な討論です。

2　ディベートの目的は何か　【目的】

①　様々な見方や考え方と出会い、自分の見方・考え方を深めること。
②　論理的で、様々な角度からの思考力を身につけること。
③　実証的で、説得力のある表現方法を身につけること。
④　効果的な資料・情報の活用方法を身につけること。

3　「論理的」「実証的」とは何か　【論理性・実証性】

「論理的」であるとは、筋道が通っており、理にかなっていること。
「実証的」であるとは、具体的な事実や証拠によって証明すること。

4　ディベートはどのように進めるのか

ディベートにはいろいろな型が有りますが、今回は次のような方法で進めていきます。
【手順と流れ】

①　論題の提示（「開発」か「保護」か）
②　役割の決定（討論・司会・審査）
③　資料・情報の収集
④　資料・情報の整理と分析
⑤　発表資料の作成と発言者の分担
⑥　実際の討論
　ア　論題の確認
　イ　「開発派」立論　→　「保護派」立論
　ウ　作戦タイム
　エ　「保護派」反対尋問　→　「開発派」反対尋問
　オ　作戦タイム
　カ　自由討論
　キ　「保護派」最終弁論　→　「開発派」最終弁論
　ク　審査員の判定・講評
⑦　討論の振り返り

5　審査はどのように行うのか

討論の内容について、以下の規準に従って判定します。　【判定の基準】

①　姿勢や態度（発言の様子やグループ内の協力）
②　論理性（筋道の通った意見であるか）
③　資料・情報の活用（適切な資料を作成しているか）
④　知識や理解の深さ（的確な発言や広い視野からの発言か）
⑤　発見と共感（新しい発見や共感できる意見があったか）

6　討論の振り返りはどのように行うか　【振り返り】

①　自分の役割はどうだったか。
②　誰のどの意見がよかったか。
③　活動全体を通して頑張っていたのは誰か。

たとえ、意見が変わらなかったとしても、意識の深いところで変化が起こっています。この変化が目的の①を達成するために大切なのです。本当に、自分以外の人の見方・考え方にふれ、自分の見方・考え方がより一層深まったり高まったりするでしょうか。しっかり確かめてください。